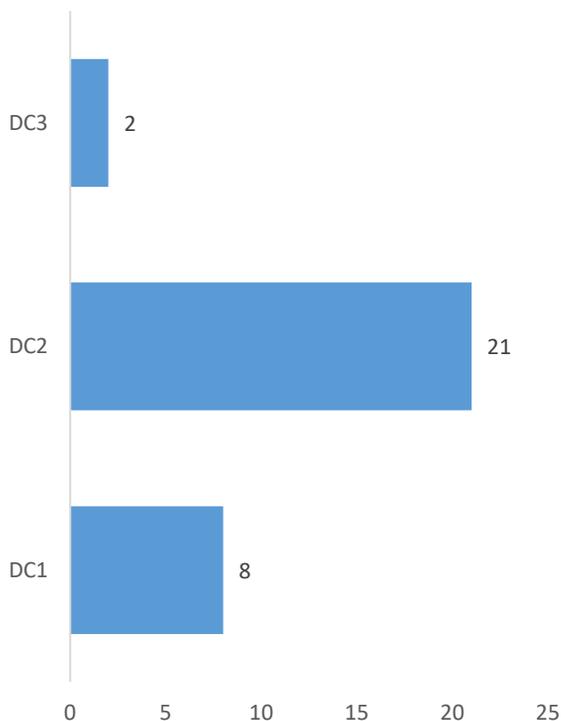


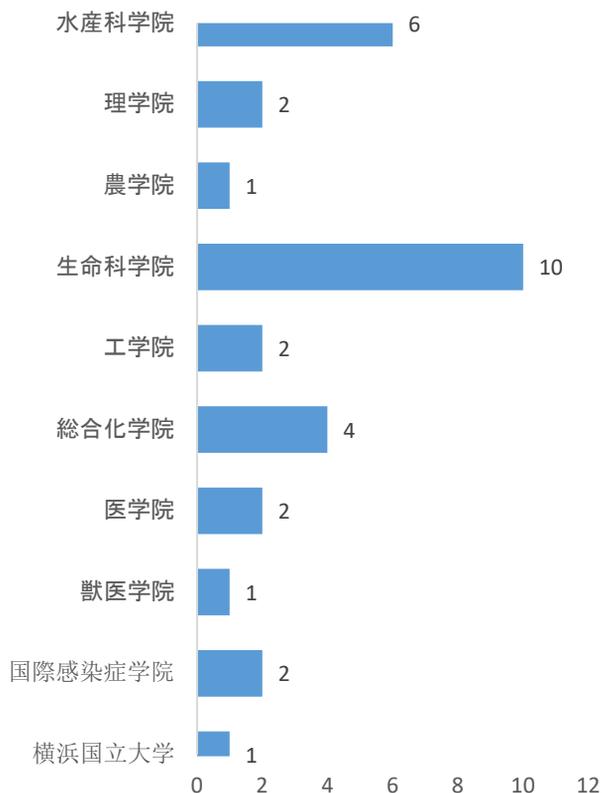
第55回 (R6第1回) 赤い糸会 (ONLINE) アンケート

[1] 回答者：博士人材27名・企業19名 (参加者：博士人材31名・企業16社)

博士人材学年

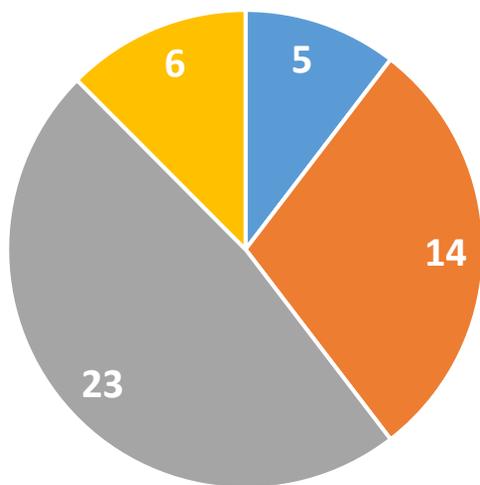


博士人材所属



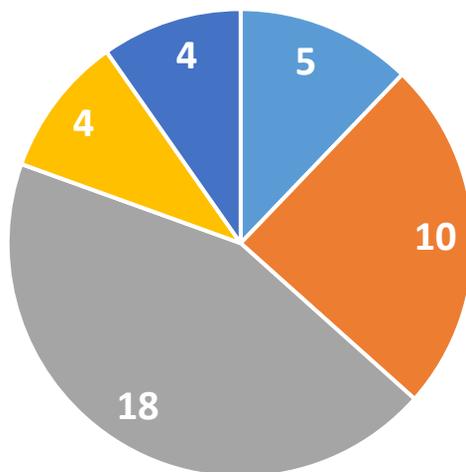
[2] 博士人材プレゼンテーション

アピールできた点(博士人材)



- プレゼン技法
- 専門性
- 人物・個性・特徴
- パワーポイント・資料作成能力

注目する点(企業)

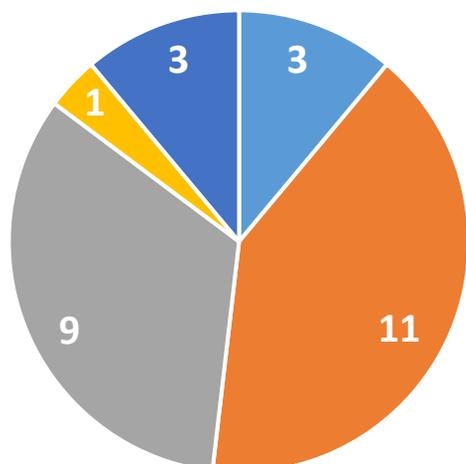


- プレゼン技法
- 専門性
- 人物・個性・特徴
- パワーポイント・資料作成能力
- その他

[3] 企業／博士人材とコンタクトがとれましたか？

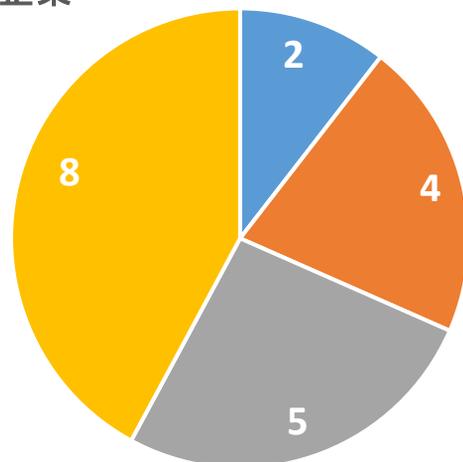
■連絡先一覧を使用してのコンタクトについて

博士人材



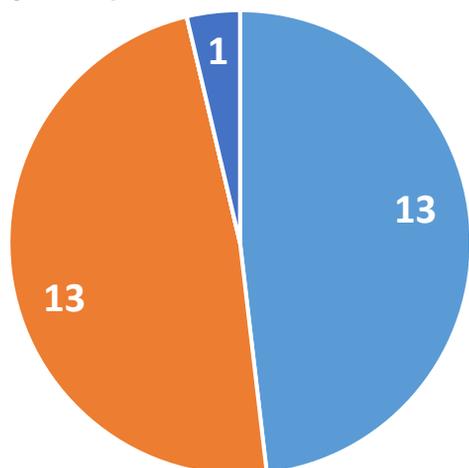
- 十分コンタクトがとれた
- ある程度はコンタクトがとれた
- あまりコンタクトがとれなかった
- 全くコンタクトがとれなかった
- その他

企業



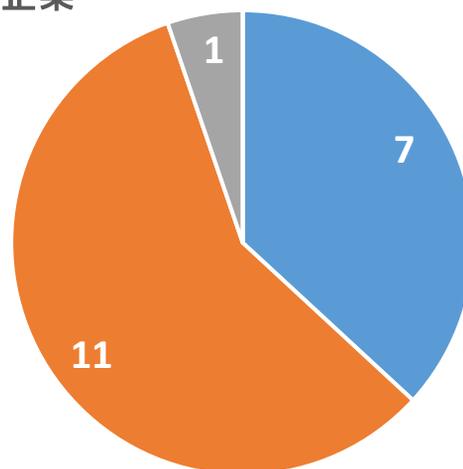
■Zoom(企業ルーム交流会)でのコンタクトについて

博士人材



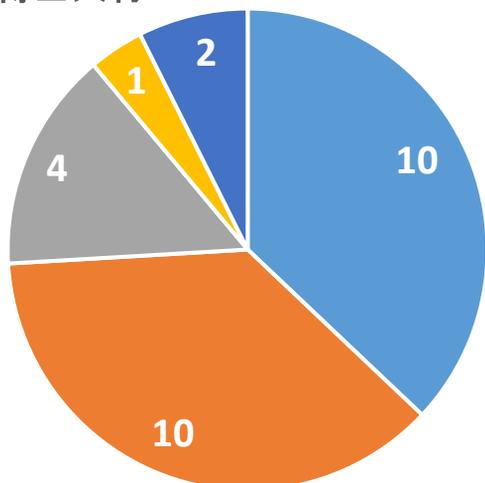
- 十分コンタクトがとれた
- ある程度はコンタクトがとれた
- あまりコンタクトがとれなかった
- 全くコンタクトがとれなかった
- その他

企業



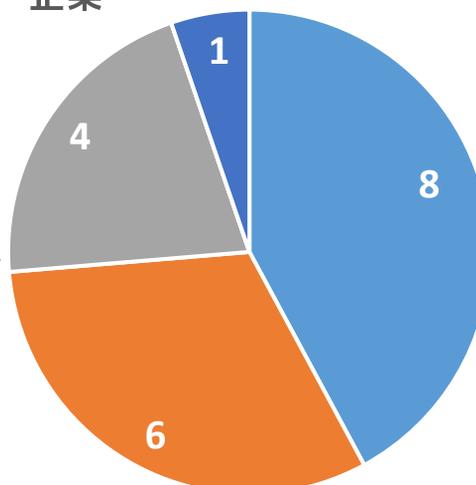
■SpatialChat(懇親会)でのコンタクトについて

博士人材



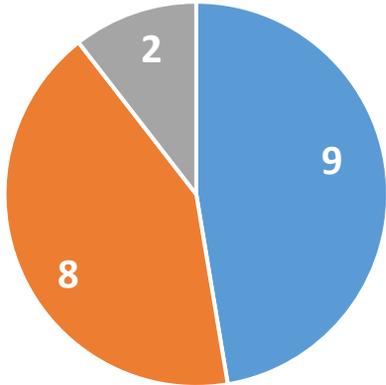
- 十分コンタクトがとれた
- ある程度はコンタクトがとれた
- あまりコンタクトがとれなかった
- 全くコンタクトがとれなかった
- 不参加

企業



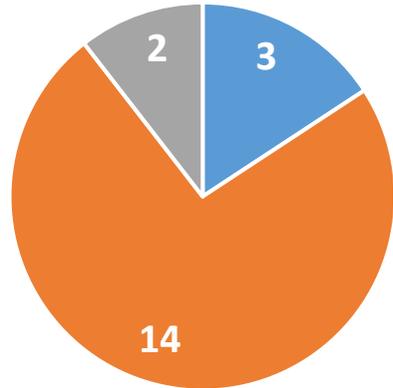
[4] 企業のみ

参加博士人材について



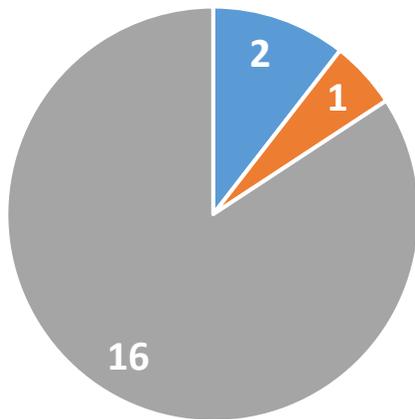
- 1. 欲しい分野の博士人材に会えた
- 2. 意外な分野の博士人材に出会えた
- 3. どちらでもない

参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください。



- 1. 採用したい博士人材がいたので、今後交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい博士人材がいた
- 3. コンタクトを取りたい博士人材はいない

DC・PDのインターンシップ(1か月位)について

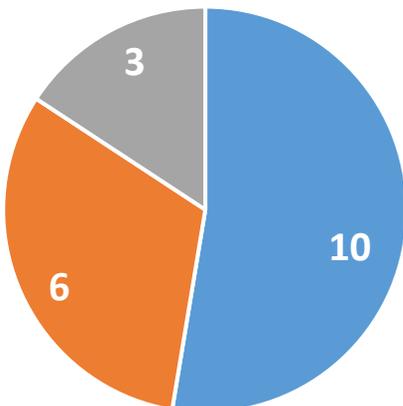


- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

「3.受け入れは難しい」を選択された方：
差し支えなければ、理由をお教えてください。

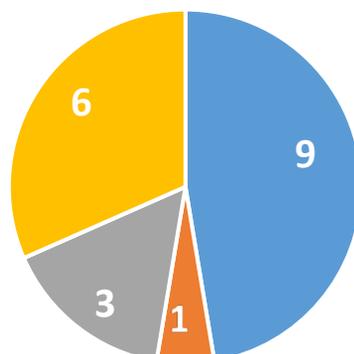
| |
|--|
| インターンは最短6ヶ月を目安としているため |
| マンパワー不足のため |
| 受け入れ態勢が整っていないため。 |
| 現時点では受入れ部門となる研究開発が多忙で長期間の受入れが難しいため |
| 創業研究においては専門分野が多岐にわたり、DC・PDの皆さまが自分自身の専門性の発揮など期待されている内容を提供できるのは難しく、また、安全配慮の面からも長期の受け入れは難しいと考えています。 |
| 双方にとって実りあるインターンシップができるかどうか、お互いの意見交換の上、検討させていただきたいと考えています。 |
| 5daysはすでに実施しているが、1か月という長期間のインターンシップの可否については検討が必要かと思っております。 |
| 弊社でおこなっているインターンシップ18か月に是非ご応募いただきたく考えています。 |
| 社内リソースの問題のため |
| 個別のインターンシップは公平性の観点よりお断りしております。弊社でインターンシップ(1か月/2か月)を実施しておりますタイミングでエントリーいただくことは可能です。 |
| インターンシップの制度がないため |
| 1ヶ月単位でのインターンシップの実施を行っていないため |
| 現場の負担感が大きいと感じているため |

DC採用について



- 1. 定期的に採用したい
- 2. 時期に関わらず、採用したい
- 3. 採用については未定

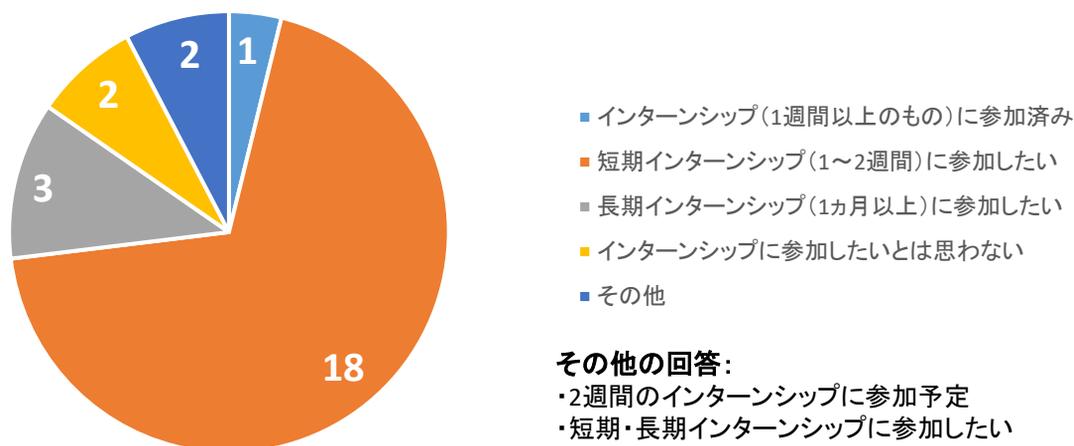
Hi-System(博士人材と企業の双方向ネットワーク)はどのように利用していますか？



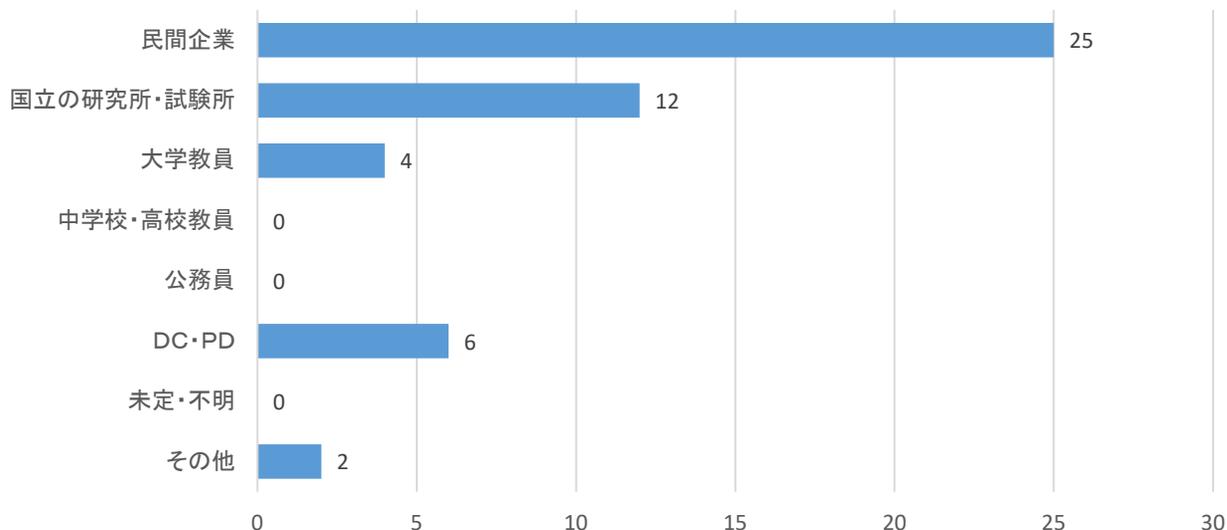
- 1. イベント参加
- 2. コミュニティ
- 3. 博士人材検索
- 4. 利用していない

[5] 博士人材のみ

本会参加の企業に限らず、インターンシップに参加したいと思いますか。



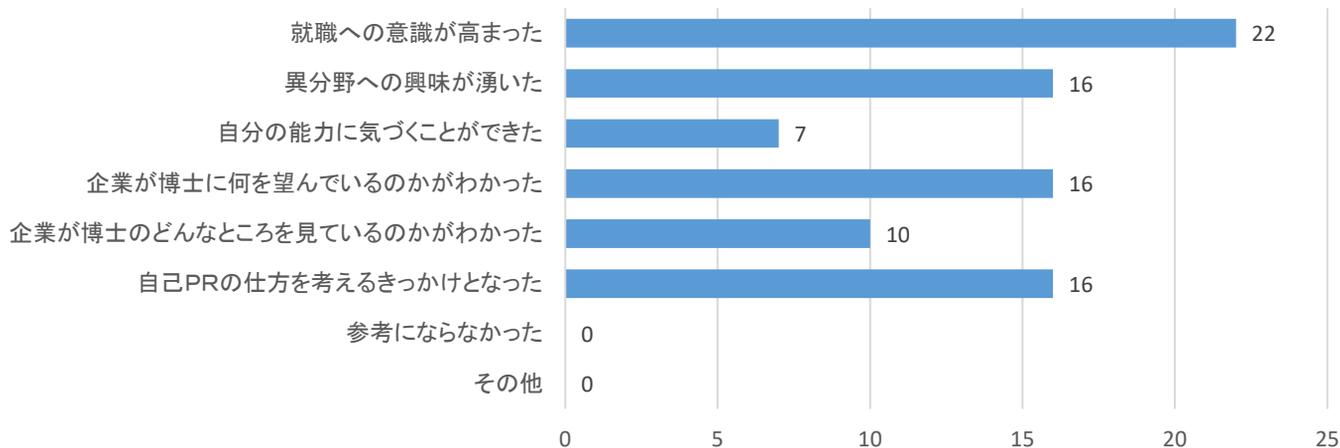
あなたは、今後のキャリアパスをどのように考えていますか？（複数回答可）



その他の回答:

- ・海外学振に応募したい。
- ・フリーランス

「赤い糸ONLINE」は、進路決定の参考になりましたか？（複数回答可）

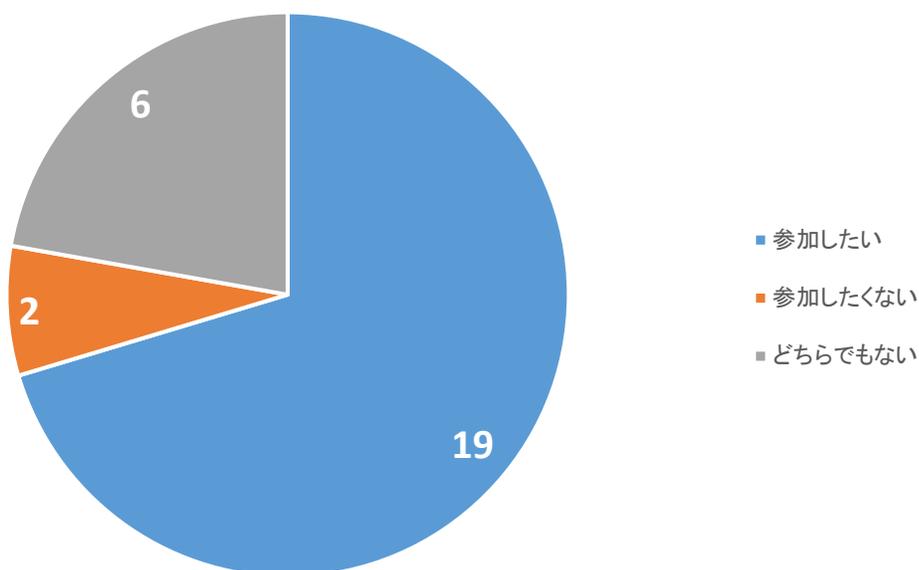


[6] 「赤い糸ONLINE」に参加して新たな気づきはありましたか。
それはどのようなことですか。（博士人材のみ）

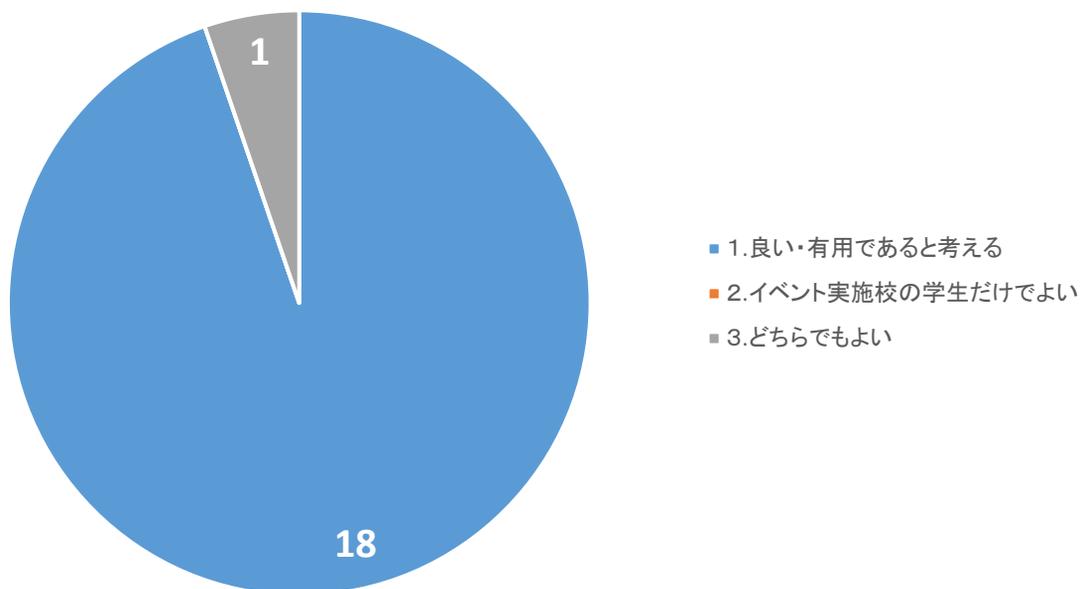
| | |
|----|---|
| 1 | 自身の研究をもっと発展させ突き詰める必要があることがわかった。 |
| 2 | 自分の専門性を社会でどのように活用していけばよいのか、またどのようなことを企業から求められているのか、を知ることが出来た。 |
| 3 | オンサイトでプレゼンするよりも時間の制約や伝え方が難しく、環境に応じた話し方が必要だと思いました。 |
| 4 | 自身の想像もしていない企業からのニーズがあるということ。 |
| 5 | やはり今の専門はそれほど重要ではないということ。 |
| 6 | 企業の方がどういうところに興味をもってくださいか。 |
| 7 | 専門性を見ない企業が多い。 |
| 8 | 自分の専門性が思ったより広い範囲で活かせることに気づいた。 |
| 9 | 自身の研究プレゼンに対して、企業ごとに興味を持っていただける点が異なっていて、企業ごとの特色をそこから知ることができた。 |
| 10 | 自分の持つ能力と、企業から求められている能力を再認識できた。 異分野でも自身の能力を活かして活躍できる可能性があることに新しく気がついた。 |
| 11 | 自分が色んなことに興味を持てること。自分にとっての長期的な幸せが何かを少し掴むことが出来た |
| 12 | 製薬企業の情報を事前に調べてはいたが、実際に交流をする中で、Web上の情報を比較するだけでは見えてこなかった違いを感じる事ができた。 |
| 13 | 日本職場はそれほど厳しくない、人材が見られます、活躍できますと思っています。 ちょっとほっとしました。 |
| 14 | 博士人材に求めていることがよくわかりました。 |
| 15 | 今まであまり考えていなかった選択肢があることに気づいた。 色々なところで自身の専門性を活かすことができることを知った。 |
| 16 | 想像以上に自由な雰囲気や研究テーマを選んで実施することができる企業が多いと思いました。 |
| 17 | 自分の受け答えの未熟さ、結論ファーストで話す必要があること。 企業が求める専門力の具体的な部分を説明する必要性。 |
| 18 | 無意識に背伸びして自分を大きく見せようとする癖があるので、直したい。 |
| 19 | 大学での研究内容にあまりこだわりなく、むしろ幅広い人材を採用したい企業が思いの外多いと感じた。 |
| 20 | 製薬会社は専攻とマッチしなければいけないイメージだったが、そうでない企業もあるということが知れた。研究内容についてアドバイスをいただいた回があり、とてもありがたかった。 自分のほうで現在の分野に固執しないのであれば、就職の際にかなり幅が広がると感じた。 |
| 21 | 就職が既に締切の企業もあるためそういう点でマッチングができればよい |
| 22 | 事前に企業を調べておくことでより理解が深まること |
| 23 | 今回、参加させていただき、就職に対する意識が向上したと思う。参加できてよかった。 |
| 24 | 改めて企業が重要視しているのは必ずしも専門分野の一致度ではなく、トランスファラブルスキルであることが分かった |
| 25 | 意外に能力があるとして認められていると思った |
| 26 | 今学んでいることだけでなく、もっと多くのことに挑戦したい |

[7] 東北大学・名古屋大学・北海道大学におけるコンソーシアム（全13大学）の取組みで、本会のような各大学マッチングイベントに連携大学の学生が参加可能なことについて

博士人材



企業



コンソーシアム(全13大学)の取組みについてご意見がございましたらお聞かせください。

すべてのイベントの案内が頂きたいです(参加実績のある一部のみになっているため)。

素晴らしい取り組みだと思います。

[8] 今後、博士人材へ期待すること・要望など（企業のみ）

| | |
|----|--|
| 1 | ご専門以外の領域・業界にも関心を広げていただきたい |
| 2 | 行動力や思考力 |
| 3 | 専門性 |
| 4 | より専門性の高い人材として企業・アカデミアで活躍頂き日本の研究活動を活発にして頂きたいです。 |
| 5 | アカデミア、企業、いずれを志望するかに関わらず、実用化を意識して研究に取り組んでほしい。 |
| 6 | ご自身の研究をしっかりと悔いのないように取り組んでいただきたい。 また、自分自身で考えて行動する、広い視野を持ってチャレンジしていただきたいと思います。 |
| 7 | 研究の目標・意義について、一般論ではなく、自分自身の力で実際の社会・顧客のリアルな課題、要望とのギャップを掴んでいただくのが良いかと思えます。また、自分の専門分野以外に非常に多様で多数の専門分野（自然・人文・社会科学のすべて）があることを認識いただくのが良いかと思えます。 |
| 8 | 担当するテーマ・組織を推し進める能力・熱量 |
| 9 | 博士課程の学生は、研究に対する客観的な視点と、自身で課題を見つけ、解決する能力に長けていると考えています。 |
| 10 | ご自身の専門性を磨くことはもちろん、他の専門領域にも目を向け、幅の広い技術者になっていただきたい |
| 11 | 素晴らしい能力とポテンシャルをお持ちの人材ばかりだと感じました。 是非社会にでて、よりよい社会を作るのに貢献していただきたいです。 |
| 12 | 研究推進力、論理的思考力 |
| 13 | 専門性、こつこつやり遂げる力、失敗を恐れずにチャレンジできるような人材 |
| 14 | 特に専門性を期待しております。 |
| 15 | 語学力（英語）を磨くと様々なキャリアの選択肢が広がると思います |
| 16 | 今できる研究に真摯に向き合ってほしいです。 |
| 17 | 博士課程で培った専門性の深さだけでなく、研究者としての自立性・主体性を期待しています |

[9] 全体を通して、「赤い糸会」（赤い糸ONLINE）についての意見、要望など

博士人材

| | |
|----|--|
| 1 | とても良かった。時間がもう少しあっても良いと思う。 |
| 2 | 各企業と交流する際に、少人数で実施してくれていたのが、色々とお話しする機会があってよかった。質問のテーマみたいなものがあると質問しやすかったかなと感じた。 |
| 3 | 企業から個人への声掛けがあるとマッチングを意識できるので、企業の担当者様に積極的に促して頂きたいです。 |
| 4 | 今後も続けていただけますと幸いです。 |
| 5 | SpatialChatに接続しにくかったのがやはり不明です…。 |
| 6 | 博士プレゼンの時間が少し短かったです。 |
| 7 | 非常に有益な会でした。特に要望などはありません。 |
| 8 | 材料系の企業の割合を増やしてほしい。 |
| 9 | 大変有意義な時間と機会を用意していただき心から感謝申し上げます。 |
| 10 | 特になし。今後とも継続して続けていただきたい。 |
| 11 | 進行がスピーディで、後半は頭が回っているか不安だった。 2日の日程に分けるなどして頂けるとありがたいです。 |
| 12 | これは赤い糸会に対する意見というよりは自分の反省だが、タイトなスケジュールの中でいろんな企業と交流をする中で、後半になるにつれて情報をまとめきれずどの質問をどの企業にしたかがやや混線してしまった。事前に会の進行をイメージして、情報をまとめるシートのテンプレみたいなものを作成できればよかったと反省した。 要望があるとすると、事前にこういう情報をこういう形式でまとめておくとよい、というようなアナウンスがあると助かったと思う。(博士はそれは自分でやってくれ、ということな気がする。) |
| 13 | ほぼ企業さんへの意見です。外国人の方は少ないですけど、今回は私以外もう一人ぐらい？日本語レベルの制限は原因の一つかもしれませんが、具体的外国人に対して、日本人と同じく要求されていますでしょうか。つまり外国人DC&PDに特殊な制度が存在していますでしょうか。 例えば、ある企業の紹介資料を見れば、日本語はすごく上手じゃないと絶対わからない場合は少なくない。それでこの企業は外国人が好きじゃないとか、厳しいとかの初印象が残りやすくなります。少なくとも資料で和語字幕や英語字幕がついている企業はもっと優しく好感ができました。 |
| 14 | 4年生の博士1年で、インターンシップに参加できないことが多いので、何か1日ジョブ体験等があるとより今後の参考になるかと思います。 |
| 15 | 先の項目にも記載させていただきましたが、プレゼン時間をもう少し長く確保してほしいです。移動の時間も考慮し、+1分するだけでも違うのかなと思いました。 |
| 16 | 想像以上に実りある会だったので、今後も継続してほしいです。 |
| 17 | 今後もずっと続けてほしい。博士学生にはかなり必要な機会だと感じている。 |
| 18 | 興味をもたなかった業種にアンテナを伸ばす機会を作る、という意図は理解できるが、お互いに全く興味のない企業とのマッチングは必要ないと思った。マッチングしたい企業の他に、マッチングしたくない企業という項目を作成してもよいのかもしれない。 |
| 19 | 全体として休憩が少なく、午前部と午後部などに分けても良いのではないかと感じた。Spatialchatにアクセスできない、アクセスできても全体の音声聞こえる不具合が生じ、懇親会では殆ど企業と交流できなかった。また、緊急時連絡先に電話したが、電源が入っていないという案内だったため、システムを改善してほしい。 |
| 20 | 赤い糸会で前回と同じ企業に当たってしまった。しょうがないと思う反面、できるだけ多くの企業と話をしたいのでそのようなことは避けられるととても助かると思った。 |
| 21 | 赤い糸会から内定に繋がった(選考短縮)などのケースがあるのか知りたい |
| 22 | 自身の発表、および企業の方とお話をする時間が短かったと感じる。もう少し余裕をもって、発表および質問をいただきたい。 |
| 23 | 自分の専門分野が一致しているところのみではなく、異なる分野の企業とも一度に交流できてよかった |
| 24 | 1回目の交流の時間がもう少し長いと良いなと思いました。 |

企業

| | |
|----|---|
| 1 | 開催いただきありがとうございました。 |
| 2 | 意識の高い博士と直接コミュニケーションが取れる貴重な機会 |
| 3 | 多くの博士人材と会うことができ、良い機会でした。 |
| 4 | フルオンラインでの開催であり細かいコミュニケーションが交わしにくいのではと思っていましたが、Spatial chatなど機能を生かしていただいたことでやり取りに不自由する場面は殆どありませんでした。寧ろ遠隔地からでも充実した時間を過ごすことができ貴重なお時間となりました。運営の皆様には感謝申し上げます。 |
| 5 | マッチングで専門性の異なる学生の研究取組を拝聴することができ、大変興味深かったです。今後も引き続き参加させて頂きたいと思っております。 |
| 6 | 現状の社内の採用予定は不明ですが、今後も継続的に参加させていただき、博士人材を採用する体制を整えておきたいと考えております。 |
| 7 | いつも大変貴重な機会をいただき誠にありがとうございます。半日ではありますが、優秀な学生の皆さまと沢山意見交換することができ、非常に有意義でした。企業も学生も多くの接点を持つという趣旨でもあるので、博士プレゼンや企業ルームの時間については問題ないかと思いますが、一方で質疑応答の途中で切れてしまうことが多々ありました。ブレイクアウトルームの終了の余白(終了のアナウンスが30秒前など)があるとそれに合わせて、回答もできるかと思いました。 |
| 8 | とても良いイベントで継続参加したいです。また、対面形式も参加する機会をいただければ幸いです。コロナ禍もあけて、やはり対面で直接交流したいと思います。交流できた学生のほとんどがとても優秀で、どんどん採用したいと感じました。 |
| 9 | 思いがけない人材とお会いでき、貴重な機会をありがとうございました。WEBかつ事前の双方向コンタクトを推奨されていないことから、他大学のイベントと比較すると、双方向コミュニケーションがうまくできたかの実感は薄いです。 |
| 10 | SpatialChatに初めて参加しました。フランクに話が出来て、とても良かったです。 |
| 11 | 良い学生と出会える場として大変ありがたいです。学生の皆さんも、専門性だけでなく、のびのびとした雰囲気を感じられ、人間的な幅を感じる学生さんも多かったです。 |
| 12 | 初めて参加させていただきましたが、とてもユニークな機会で驚きました。普段、あまり接することのない分野の研究内容を拝聴し、非常に刺激的でした。直接的に採用につながるかはわかりませんがこのような機会に参加させていただき感謝申し上げます。 |
| 13 | 初めて参加しました。大きすぎるイベントではないので、学生さんと企業の距離が近く感じました。一方で学生さんは非常に緊張されている様子で、数人だからこそもっと突っ込んだ質問をしていたらいいと思います。 |
| 14 | 多くの博士学生の方との交流の時間をいただき、ありがとうございました。 |
| 15 | 博士人材のプレゼンテーションは専門性が異なると質問が難しい、企業ルーム交流会の1回あたりの人数が少ないため少数の学生とは密にコミュニケーションが取れたが多くの学生と対話できていない。 |
| 16 | 例年の通り、非常に準備されたイベントで安心して参加できた |
| 17 | 北大さんの博士課程の学生さんと直接交流することができる道総研にとっては、貴重な場であり、内容も素晴らしいものでした。主催の皆様には心から御礼申し上げます。 |
| 18 | いつもお声がけいただきありがとうございます。学生さんとお話の途中で強制的にルームが閉じてしまいますので、残念！となることはあります。しかしながら、その後の懇談会でまたお話しに来てくださることもあり上手く設計されていると感じております。 |
| 19 | 優秀な博士人材とのタッチポイントとしてとてもいい機会だと感じております。引き続きよろしくお願いたします。 |

[10] J-window (先端人材育成センター 担当教員との面談、エントリーシート などの添削、面接練習)の利用について

